

**平成 22 年度 愛知県委託事業
多文化初期指導教室
開催業務
実施報告書**

平成 23 年 3 月

NPO まなびや@KYUBAN

目 次

第 1 章 多文化初期指導教室事業の経緯・概略 ————— 1

1. 事業の趣旨・目的 1
2. 実施地域の外国人の状況 1
3. 実施体制(各関係者の役割) 1
4. 対象者・参加者 2
5. 実施会場 2
6. 開催スケジュール 2

第 2 章 多文化初期指導教室の開催内容 ————— 3

1. 指導の準備 3
2. 指導の内容 4
3. 活動の成果 6
4. 反省と課題 7
5. 使用教材 14

第 3 章 「プレスクール実施マニュアル」の活用と課題 —— 15

1. マニュアルの活用状況 15
2. マニュアルに対する意見および課題 16

資料編 ————— 17

第1章 多文化初期指導教室事業の経緯・概略

1. 事業の趣旨・目的

愛知県は、日本語指導者による初期指導のモデル事業(平成19～20年度)の成果等を基に、21年度に、初期指導教室(プレスクール)の実施のためのノウハウ等をまとめた「プレスクール実施マニュアル」を作成した。本事業は、初期指導のさらなる普及方策の検討に資することを目的に、日本語指導者以外で日本語ができる外国人等も指導者に加えた、マニュアルを活用した初期指導教室を、県内各地で開催することを目的に実施された。

2. 実施地域の外国人の状況

名古屋市港区九番団地は、UR都市機構が管理・運営をしている住宅で、全戸数1,475戸のうち、約3割(平成21年度末時点)が外国籍住民である。名古屋市最大の外国人集住地域であり、主な住民はブラジル、ペルー、ボリビア、コロンビア等の南米出身者であるが、フィリピン、ビルマ等のアジア出身の住民も居住している。そのため、外国にルーツを持つ子どもが、団地内の公立保育園には約8割、小学校には約3割(平成22年度末時点)在籍している。

3. 実施体制(各関係者の役割)

本事業は、NPOまなびや@KYUBANが、名古屋市港区役所、および、九番団地内の保育・教育機関と連携して実施するものであり、各関係者の主な役割は、次のとおりである。

① NPO まなびや@KYUBAN

- ・ 事業の進行管理、関係者の調整
- ・ 指導者、教材、事務用品等の確保
- ・ 初期指導教室対象者の調整、対象者への案内状作成
- ・ 初期指導教室の評価・分析

② 名古屋市港区役所

- ・ 港区就学ガイダンスの実施

③ 九番保育園

- ・ 名古屋市保育課等との調整
- ・ 初期指導教室実施会場等の提供
- ・ 初期指導教室対象者への調査および情報提供
- ・ 初期指導教室参加者の保護者への連絡等

④ 東海小学校

- ・ 外国人児童や小学校に関する情報提供
- ・ 初期指導教室における小学校見学等への協力
- ・ 机、椅子等の物品貸与

4. 対象者・参加者

本事業では、新年度に小学校入学予定であって、外国籍であるか、又は外国の文化的背景を持つ子どもを対象にすることにした。事業実施前に、九番保育園をはじめ近隣の保育園や、九番団地等で聞き取り調査を行い、対象となる子どもを調査したところ、10名いることがわかった。

【対象者の国籍、就園状況等】※ 会場は2箇所をわけて実施。①九番保育園 ②まなびや@KYUBAN

No.		性別	国籍	所属	多文化初期指導教室参加
1	Aくん	男	コロンビア/ペルー	九番保育園	①に参加
2	Bくん	男	ブラジル	九番保育園	①に参加
3	Cくん	男	ブラジル	九番保育園	①に参加
4	Dくん	男	ブラジル	九番保育園	①に参加
5	Eさん	女	ブラジル	九番保育園	①に参加
6	Fさん	女	フィリピン	九番保育園	①に参加
7	Gくん	男	ブラジル/ペルー	近隣の保育園	②に参加
8	Hくん	男	ブラジル	近隣の保育園	②に参加
9	Iくん	男	ブラジル	不就園	②に参加
10	Jくん	男	ブラジル	近隣の保育園	参加希望せず

5. 実施会場

上記の表の No.1～6の子どもについては、九番保育園の在籍園児であったこと、同保育園に空き教室があり、多文化初期指導教室の会場として専用的に利用することが可能であったこと、指導中に他の園児との接触がない場所で指導に集中できる環境にあることなどから、九番保育園の空き教室を会場とすることとした。No.7～9の子どもについては、NPO まなびや@KYUBAN の事務所において初期指導教室を開催した。

6. 開催スケジュール

平成 22 年 8 月	九番保育園と実施体制、スケジュール等について打ち合わせ 団地内および近隣で対象者の調査
9 月	指導担当者と「プレスクール実施マニュアル」の読み合わせ 参加者の様子の見学、園長及び参加者の担当保育士からの聞き取り 指導方法検討・教材準備等 多文化初期指導教室開始・語彙調査実施
10 月	市町村向けマニュアル説明会への参加 指導者が東海小学校を見学、日本語指導担当教員から聞き取り
平成 23 年 1 月	東海小学校見学
3 月	多文化初期指導教室終了・語彙調査実施・意見交換会に参加

第2章 多文化初期指導教室の開催内容

1. 指導の準備

1-1. 研修

- ・ マニュアルのレクチャー、読み合わせ
- ・ マニュアル説明会参加

1-2. 情報収集

1-2-1. 保護者からの調査票

1-2-2. 実際に保育園に赴き、園児の観察

1-2-3. 語彙テスト(100問語彙テストを日本語と母語で実施)

1-3. 指導計画書作成

1-3-1. 時間割

- ・ 九番保育園での教室開催時間については、保育園としての活動の妨げにならないように、小学校の授業時間にあわせて1時限45分の授業時間とした。

会 場	曜 日	開催時間	参加者数
①九番保育園	月・火・木・金	12:15～13:00(45分)	6名
②まなびや@KYUBAN	月・水	16:00～17:30(90分)	3名
	土	14:00～16:00(120分)	

1-3-2. 到達目標

日本語学習目標	<ul style="list-style-type: none">・ 自分の名前をひらがなで書くことができる。・ 自分の名前をカタカナで書くことができる。・ ひらがな清音 50音を読むことができる。・ ひらがな清音 50音を書くことができる。・ ひらがなの濁音を理解することができる。・ 1から10までの数字を読むことができる。・ 1から10までの数字を正しく書くことができる。・ 1から10までの数字を数えることができる。・ 一桁の数字の簡単な足し算ができる。・ 暦に興味を持ち、日付を正しく答えることができる。
---------	---

学 校 生 活 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校生活を送る上で必要な挨拶が理解でき、言うことができる。 ・ 授業の挨拶ができる（起立、礼、お願いします、着席等）。 ・ 正しい姿勢で座ることができる。 ・ 学校での一単位時間（45分）程度、座っていることができる。 ・ 挙手をし、席から立ち、椅子を机に入れた状態で発言できる。 ・ トイレに行きたい時に、許可を求める表現が言える。 ・ 教室での基本的な指示を理解できる【書いてください、聞いてください等）。 ・ 指示に従って行動することができる。
----------------------------	--

2. 指導の内容

2-1. 各月毎の指導内容

・ 「プレスクール指導マニュアル」P40～52 を参考に、すでにできている部分は省略し、必要と思っものを組み込みながら、スモールステップを積み上げて到達していくよう配慮した。

	日本語指導	学校生活指導
9・10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の名前をひらがなで書き順通りにきれいな文字で書く。 ・ 書きやすい、やさしいひらがなを読み、書く。 ・ 学習した文字に関する語彙を増やす。 ・ 50音の歌『もたろう』を歌う。 ・ 1～15程度までの数字を読み、書き、数える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業のあいさつを正しい姿勢・態度で行う。 ・ 正しい姿勢で座ることができる時間を長くする。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の名前をひらがなできれいな文字で書く。 ・ 既習のひらがな16文字の読み書きを定着化させる。 ・ 新しく学習するひらがな(12文字程度)を読み、書き、そしてその語彙を生活の中から自分で探しだし、発言する。 ・ 学習した文字で構成された単語を読み、書く。 ・ 既習の数字1～10の数唱、書きを定着化する。 ・ 10以上の数字を正しく数唱し、書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長い時間、私語なく集中して話を聞く。 ・ 指示されたことを理解し、実行する。 ・ 長い時間、正しい姿勢で座る。 ・ 授業の段取りを理解し、自分から素早く準備や片付けをする。 ・ 集団行動の場面で、適切に行動する。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習のひらがな21文字の読み書きを定着化する。(特に書き練習の強化) ・ 新しく学習するひらがなを読み、書き、そしてその文字に関連する語彙の意味を理解し、活用する。 ・ 学習した文字で構成された単語を読み、書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の間、授業に関係のない私語をせずに、集中して話を聞く。 ・ 指示されたことをよく聞いて理解する。 ・ 授業の間、正しい姿勢で座ることができる。 ・ 授業の段取りを理解し、自分から素早く準備や片付けをする。

	<ul style="list-style-type: none"> 既習の数字1～10の数唱、書きを定着化する。 10以上の数字の数唱。 数字と具体物とのマッチング。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団行動の場面で適切に行動する。 暦を理解し、日付を言う。
1月	<ul style="list-style-type: none"> 清音46文字を正しい書き順で書く。 自分の名前のフルネームを、ひらがなで書く。 濁音を理解する。 学習した文字で構成された単語を読み、書く。 絵をみて、その名前をひらがなで書く。 20までの数字の大きさを理解し、正しく書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導者の話、指示を集中して聞く。 暦を理解し、日付を正しく言う。 指示をよく聞き、それを理解し、自分一人で課題に取り組む。 クラスメートの気持ちを理解する。 丁寧な言葉で発言する。
2月	<ul style="list-style-type: none"> ひらがな清音46文字を正しい書き順と形で書く 50音順を確実に覚える。 自分の名前のフルネームをひらがなで書く。 自分の名前のフルネームをカタカナで書く。 濁音、半濁音を理解する。 学習した文字で構成された単語を読み、書く。 50までの数字の大きさを理解し、正しく書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導者の話、指示を集中して聞く。 暦を理解し、日付を正しく言う。 指示をよく聞き、理解し、課題に取り組む。 挙手をし、指名されたら立って発言し、静かに座る。 クラスメートの気持ちを理解する。 丁寧な言葉で発言することができる
3月	<ul style="list-style-type: none"> ひらがな清音46文字を正しい書き順と形で書く。 50音順を覚える。 自分の名前のフルネームをひらがなで書く。 自分の名前のフルネームをカタカナで書く。 学習した文字で構成された単語を読み、書く。 50までの数字の大きさを理解し、正しく書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導者の話、指示を集中して聞く。 暦を理解し、日付を正しく言う。 指示をよく聞き、理解し、課題に取り組む。 挙手をし、指名されたら返事をし、立って発言し、静かに座る。 忘れ物をせずに授業に臨む。 丁寧な言葉で発言する。 クラスメートの意見をきちんと聞く。

※ 指導するにあたって、「プレスクール実施マニュアル」の活動例を多く活用した。

2-2. 指導中の言語について

・ 指導者の授業中の言語は、小学校の授業を想定して、日本語のみの指導で統一した。九番保育園児は、6人全員が日本語での会話に不自由がなかったため、子どもたちの授業中の使用言語も、特に指示をされずとも、主に日本語であった。ただし、喧嘩の仲裁や心のケアに関するときには、母語スタッフが母国語で話を聞くこともあった。

2-3. 学校見学について

・ 指導中期後半の1月に、東海小学校の協力を得て小学校見学を行い、1・2年生の授業と日本語適応指導教室の授業を見学した。小学校を訪問し、実際に授業を見ることで、子どもたちは「学校」と「学習」を強く意識するようになり、その後、授業態度が飛躍的に改善された。

3. 活動の成果

3-1. 語彙テストの結果

「プレスクール実施マニュアル P84～132」の「語彙調査」のツールを用いて「100 問語彙テスト」を実施し、教室開始時と終了時の日本語能力の伸びをはかった。なお、No.1～6は、九番保育園教室で約6ヶ月間(平成22年9月中旬～平成23年3月中旬)、No.7～9は、まなびや教室で約5ヶ月間(平成22年11月初旬～平成23年3月中旬)、多文化初期指導教室に参加した子どもである。

表1. 教室開始時と終了時の100問語彙テストの結果と伸び率】

No.		性別	国籍	教室開始時 〔H22.9月〕	教室開始時 〔H22.11月〕	教室終了時 〔H23.3月〕	伸び数
1	Aくん	男	コロンビア/ペルー	89		100	11
2	Bくん	男	ブラジル	85		97	12
3	Cくん	男	ブラジル	77		98	21
4	Dくん	男	ブラジル	89		96	7
5	Eさん	女	ブラジル	77		96	19
6	Fさん	女	フィリピン	80		90	10
7	Gくん	男	ブラジル/ペルー		60	93	33
8	Hくん	男	ブラジル		51	60	9
9	Iくん	男	ブラジル		14	19	5

◆九番保育園教室 No.1～6の子ども … 教室開始時の調査では、ほとんどの子どもに「形容詞」「数字」「文字の読み」で、点数が低い傾向がみられた。また、「いぬ」を「わんちゃん」、「ぞう」を「ぞうさん」、「いす」を「おいす」、「て」を「おてて」、「め」を「おめめ」…というように言葉の使い方にも特徴がみられた。これらの結果をふまえ、九番保育園教室での日本語指導では、①文字の指導、②数字の指導、③形容詞の学習、④名詞の正しい言い方、以上四点を重点的に指導できるよう、カリキュラムをたてて実施した。その結果、半年後の終了時の語彙テストでは、文字、数字は間違えることなく答えることができるようになり、伸び数の高さにつながった。

◆まなびや教室 No.7～9の子ども … GとHは、日本人が多く通う他の保育園に通っている。年長組40人のうち、彼ら二人だけが外国籍の子どもという環境であるため、日本語の語彙を多く持っているだろうと予想されたが、実際にテストをしてみると意外に低い点数であった。11月、彼らの保育園に授業見学させてもらう機会があり、二人の様子を見に行っただが、日本語の洪水の中で、二人ともぼつんと取り残されているのが目についた。たった一日だけの見学では何ともいえないが、外国籍児童が多いか少ないか、というだけではなく、少人数であるか否かによっても、日本語の習得度は変わってくるのではないだろうかと推測された。まなびや教室では、1対1の指導を心がけ、きめ細かい指導ができるように配慮した。

4. 反省と課題

4-1. 多文化初期指導教室の環境

- ① 参加児童9名のうち、8名が日本の保育園に通っており、日本語に慣れ親しんだ環境で育っていること、保護者が日本の小学校に進学させることを決めていること、小学校に子どもたちの友人が多く通っていることなどから、子どもたちの学習の動機付けには困らなかった。
- ② 保育園と協働で開催できたことで、子どもの生育歴や家庭環境、園での様子を共有することができ、子どもの生活環境に配慮しながら指導をすることができた。また、保育経験豊富な保育士の方々より、保育面でのアドバイス(年齢相応の発達過程等)をいただくことができたのは、指導をするうえでたいへん参考になった。
- ③ ほとんどの子どもたちが通うことになる東海小学校より、1年生用の机と椅子をお借りすることができ、教室形式の授業が可能になった。
- ④ 子どもたちの母語がわかるスタッフに、子ども同士で悪口を言いあっているときや喧嘩の仲裁、落ち込んでいるときに悩みを聞く等、さまざまな場面で適切に対応してもらい、精神面でのサポートも可能であった。

4-2. 関係者との関わり

- ① 九番保育園：できるだけ毎週金曜日に反省会を行い、子どもの学習状況にあわせて指導計画を柔軟に変更していくことができた。また、保育園の行事には必ず声をかけていただき、授業以外での子どもたちの様子も把握することができた。
- ② 東海小学校：机や椅子などの物品を貸し出しや、授業見学でご協力をいただいたほかにも、小学校での日本語指導の状況や小学校就学前に身につけておいて欲しいこと等をアドバイスいただけた。
- ③ 保護者：「プレスクール通信」を発行したり、保育園から授業のがんばりの様子を伝えていただいたりして、学習の進捗を伝えることができた。また、保護者がまなびや@KYUBANの事務所に学習相談だけではなく、生活相談をしに来ることもあり、円満な関係作りが図れた。

《 寄稿 》 九番保育園 保育士 鈴木千智

【 よかったところ 】

- ・ 園の職員ではない人が講師であったので、ほぼ毎日同じ時間に取り組むことができたことが子どもたちの意識付けにもよかった。また、職員も園の意識付けにもなった。日頃習慣化の難しさを感じていたが、毎日取り組むことで少しずつであったが、あいさつの大切さや一定時間座って課題に取り組むなど授業を受ける態度も身につけていった。
- ・ ほとんどの子が団地内に住み、狭いコミュニティの中で生活していたので、保育士以外の人の日本語に触れるよい機会となった。保育園で使われる日本語は簡単な単語や噛み砕いた短い文章にすることが多いので、敬語や小学校で使われるような文章にも馴染めたのではないかと。

【 見えてきた課題 】

・ 子どもたちがプレスクールで日本語を学んでも、保護者へがんばりや達成感がなかなか伝わってなかったことが残念であり、どうしたら保護者も巻き込めるのかが課題である。開始時は園で用意した筆記用具を使用していたが後半は家で用意してもらった筆記具を使用し、家庭でもプレスクールを意識してもらおうとしたが意図をうまく伝えられなかったのが現状。子どもたちが学んだことを保護者と共有できるようにすることがプレスクールを小学校につなげていくためには必要なのではないだろうか。子どもと一緒に保護者も学ぼう、子どもたちががんばっている姿を認められるように働きかけることが必要だと考える。また、文字の読み書きだけではなく生活習慣をきちんと身につけることも大切であると思うが、「書くこと」イコール「勉強」という意識が強く「書くこと」「書けること」に親子ともこだわってしまう傾向が見受けられた。自分の気持ちを日本語で表現すること、朝帰りやプレスクールの支度を自分でできること、他人との関わり方(話し方や態度など)を知ることなど文字習得以外にも小学校にあがる前に身につけたいことがあるということを保護者と共通の認識としてもてるとよかったと思う。「書くこと」にこだわってしまいやすいために、園での学習だけでは足りないという声もきかれ、まなびやでも学習することになった子もいる。楽しみに通っている子がほとんどだったが、子どもたちにとって本当に必要なかどうかはわからない。保護者の期待に応えようと負担に感じていた子もいたのではないか。このような子どもの精神的、身体的な負担や保護者の不安や心配を減らすためにもっと学校と連携を取り合いながら進められるとより有効に取り組めるのではないかと思う。学校と連携をとることで小学校生活のスタートもスムーズになるのではないかと思う。

・ いろいろな教材を用いて指導してもらったが、日本人家庭で用いるような教材だけでは文字や語彙の習得は難しいのではないかと感じた。特に語彙は園生活の中で使われるものに限定されやすく、名詞がなかなか増えていかないように思われた。また、気持ちをことばで表現することも語彙の乏しさからうまく表現できずイライラしていることもあったので、授業をしながらどのような日本語の表現で苦労しているのか見極めフォローしていくことが重要なのではないかと思う。母語と日本語の違い(重要視するカテゴリーなど)を指導者も理解することが必要である。

【 プレスクール事業に関して感じたこと 】

・ 自分の経験していない「学校」という場に子どもを通わせることは保護者にとって子どもの成長の喜びとともに不安も大きいと思われる。また子どもたちも同じように期待と不安を抱えている。その期待を膨らませ、不安を減らすためにはこのプレスクール事業は保育園以外の人からの情報源として有効だと思われる。

・ 外国籍の子どもとその家族が安心して生活できる環境を提供するという点からもこの事業は有効なのではないかと思う。子育てや就学に関する悩みや不安を相談できる場所を提供することは安心して生活できる環境にもつながるので、地域の保育園などと協力して事業をすすめられるとより有効になるのではないかと思われる。

- ・ 外国籍の子が多く在籍している園では、日本語を母語とする子も、語彙が乏しかったり、文章の組み立てが逆になったり、また言語が混ざってしまい混乱したりしている子がいると思われる。また、園内でも、みんなに伝わるように話をするため、なるべく簡単な単語や短い文章で伝えることが多くなってしまい、いろいろな日本語に触れる機会が少なくなりがちである。このようなことから、日本語を母語とする子どもにも、プレスクールのような活動はいろいろな日本語に触れる機会になるし、日本語を正しく理解するためにも有効であるし、必要であるだろうと考える。

4-3. 指導担当者のふりかえり

・ 九番保育園教室(月・火・木・金) 指導担当 奥村千世美

「ご挨拶もお勉強だよ。お勉強したくないの?」「お勉強は頭で聞くと忘れちゃうから、心で聞く!」「もっとお勉強したい。だって、わかると嬉しいから」。

これは、私が約半年間のプレスクールの中で聞いた子どもたちからの言葉です。初めて会った時の子どもたちは、人見知りをして目を合わせてくれなかったり、魚のように目をキョロキョロとさせ、不思議そうに私を見ていたり、恥ずかし気にもじもじとしながら笑ってばかりだったり…。6人全員が外国籍というクラスの彼らは、「このひとだれ?」「どんなひと?」そう、かわいい顔にはっきり表していました。しかし、いざプレスクールの授業が始まると、初対面の時の人見知りはどこへやら、やはり5歳の子どもらしく、個人のペースやわがママが通らない集団授業にストレスを感じて怒りを爆発させたり、無言で抵抗を示したり、なかなか感情のコントロールができません。子ども同士の諍いや、つい物に八つ当たりしてしまうことも日常茶飯事でした。それもそのはずで、「おべんきょう」という何か楽しいことが始まると期待して胸躍らせていた彼らに、これまで彼らの自然なコミュニケーションツールであった母語での発言を授業中禁止としたり、個性豊かでそれぞれにはっきりとした意見がある彼らに、自分が話したい時もクラスメートが発言している時は黙って聞くことを求めたり。突然現れた「お勉強の先生」と言う名の私の指示に、子どもたちはストレスいっぱいだったことでしょう。私は私で、日本語力の向上と共に、集団行動に慣れさせ、けじめをつけることを学ばせたいという意図で厳しく指示を出しながらも、内心では、きちんと自分を主張し、周りに染まらず、それぞれに並はずれた長所のある彼らに魅了されっぱなしでした。

私が子どもたちへの接し方、教授法で悩んでいるうちに、子どもたちの方は始めに私が出した課題を早々とクリアし、いつも片付けが他の子どもの倍以上かかってもできなかった子どもが、いつの間にか「できました!」と満面の笑みで一番手を挙げていました。プレスクール開始前にはひらがなが全く読めず、いつも不安そうな顔をしていた子どもも、カードをめくる私の手が付いていけないほど、もの凄いスピードでひらがなを読んでいました。嬉しそうに「できました!」と言いながら。

そして、その「できました!」という笑顔が、張りつめていた私の緊張の糸をもプツン!と切ってくれました。それからは、私も彼らの「できました!」に感情のまま喜びを表しました。時には、ひらが

な「こ」の語彙の発言で、母国「コロンビア」と誇りを持って堂々と答える姿に、感動で文字どおり飛び上がってしまったほどです。

確かに今の彼らは、聞き手がよく耳を傾けて意味を汲み取ろうとしないと、言いたいことははっきりと伝えることができません。持っている語彙も、名詞ではそれほど多くありません。集団行動を自分の意思を我慢しながら進めることも難しいかもしれません。しかし、私たちがプレスクールを通じてやろうとしてきたことは、日本語能力を日本人の子どもと同等に引き上げるのではなく、小学校で戸惑うことなく自信を持って楽しく生活できるようサポートすること。そのための自信や自己肯定感を育てることでした。彼らは、プレスクールで日本語を学び、学校生活の体験練習をすることによって、私たちの想像以上に大きく成長しました。それには、それまでの保育園さんでの教育や、大変に心強かったフォローによるところが大きいです。子どもたちは、それらに恵まれたゆえの所もありますが、周りの愛情やケアを最大限に受けながら、日本語を自分たち自身の努力で学び、どんどん自信をつけていきました。その中で、分からないクラスメートを笑ったりせず思いやること、人の発表を聞いて、その人の良かった面を意見すること、休みの人の分のファイルを片付けたり、みんなの分のプリントを揃えたり……。そういった思いやりや気遣いを自然と身につけていきました。プレスクールも後半からは、特に私が注意しなくても、ただ黙って見ているだけで、「シッ！」と静かにするように注意をしあったり、ふざけている子には「早く勉強しようよ。時間がもったいないよ！」と声をかけたりしていました。また、こんなこともありました。クラスの中にいつも感情を抑えられず、怒りの気持ちにかられると全身で表現してしまう子がいました。その子が、ある時、机をドンッと思い切り叩きました。正直、「またか……」と思って振り向くと、その子は机をじっと見つめながら、「……でも、がんばるわ……」とポソッと呟きました。「ぼくにはできない！むずかしすぎる！！」と口癖のように言っていた子が、いつの間にか「せんせい、できた！」と言うことの方が多くなりました。そんな時が、彼らの成長を目の当たりにして、本当に感動する瞬間です。

保育園で学んだこと、プレスクールを通じて得たもの、それらを活かしながら、自分たちの素晴らしい個性を大切に、小学校生活へ旅立って行って欲しいです。彼らには臆せず自分を表現できるという最高の武器があります。母語で話しながら、瞬時に日本語に切り替えられるスイッチも持っています。家族や保育園での教育から受け継いだ、母国への誇りもあります。そして、それまで苦手で得体の知れないモンスターのような存在であった、「日本語の読み書き」とも大の仲良しになりました。人に迷惑をかけず、人を思いやり、自分のことを自分でできるように努力ができれば、右向け右のように、型にはまらなくてよいと思います。人と意見が違って、人と同じ事が同じペースでできなくても、それぞれに天才的な才能があります。今の彼らのまま、そのまま素晴らしいです。6人全員外国籍の仲間、という環境から飛び出して、大勢の日本人の子供たちとの世界に飛び出しても、今の自分たちに「ぼくは、わたしは、だいじょうぶ！」と自信を持って小学校生活を送ってほしいと思います。そのために、地域で子どもたちを見守ること、その保護者たちとも繋がって、困っている保護者たちをケアしていくこと、それらが大切だと痛感しました。今回、この恵まれた環境を与えてくださった九番保育園さんと、このプレスクールに関わってくださった全ての皆様に心から感謝しております。ありがとうございました。

・ まなびや教室(月・水・土) 指導担当 ガートリンガー裕子

2010年12月から3名の子供たち(コロンビア:1名、ブラジル:2名)と、2011年1月下旬からは1名の子供(ブラジル)が加わり、4名の子供たちに日本語(ひらがな)と算数(数字、簡単な文章問題)を指導しました。初めは子供たちも緊張している様子でしたが、回を重ねるごとに日本語を学ぶにくだけではなく、保育園での出来事や週末にした事などを話してくれるようになり、語彙も少しずつ増えていきました。

個別で見えていくと、A君はとてもしっかりしていて、友達が学習中に遊んでいると注意をしたりするリーダー的存在でした。保育園でも日本語を学んでいて、12月の段階で約半分のひらがなを読んだり、書いたりすることが出来ていました。しかし、まだ定着していないひらがながあったり、練習をし直した方がよいひらがなもあったので、それらの文字を中心に指導しました。途中から家族の状態や本人の体調不良でプレスクールに来ることが減り、ひらがなを最後まで覚えることはできませんでしたが、3分の2以上は書けるようになり、読めるようになりました。また、簡単な文章問題であれば、少し手助けをするだけで解くことが出来るようになりました。数字は1から10までならある程度正しくきれいに書き読むことが出来るようになりました。

H君は、保育園で日本語に触れていますが、日本に来た時期も一番遅いためかひらがなを書いたり、読んだりすること苦労していました。覚えることも苦手なようでした。初めは「あ行」から指導していましたが、筆順や形をとるのに苦労をしていたので、プリントを使い筆順が少なく、形のとりやすいひらがなから指導しました。約3分の1ぐらいのひらがなを習得し、数字(1~10)はほぼ書いたり読んだりすることが出来るようになりました。

G君は、初め他の子の方がひらがなを書くことができたり、読むことが出来たりするのを見て、自信を失っていました。しかし、2, 3週間後には自分が書いたり、読んだり出来るひらがなも増え自信を付けていきました。時々「休憩はしたくない」と言うこともあり、字を覚える楽しさ、字が読めることで本などを読むことが出来る楽しさを実感し、ますます自信をつけていきました。ひらがなはほぼ書き、読むことが出来るようになりました。数字(1~20)はほぼ正確に書け、100まで読むことが出来るようになりました。

1月下旬から参加をし始めたI君は、日本へは2年ほど前から来ていたもののほとんど日本語に触れることがなく、名前を聞いてもなかなか言うことが出来ませんでした。ひらがなは全く書くことができませんでした。プリントを使い運筆練習から始め、形のとりやすいひらがな、自分の名前を書くところから始めました。家庭の諸事情により宿題を出すことが出来ず、文字の定着に時間がかかりましたが、まじめな性格で、日本語学習にも意欲的に取り組み自分の名前と数個のひらがなを書き、読むことが出来るようになりました。

今回、プレスクールで指導していて感じたことは、個人差はあるものの日本語を学ぼうとする姿勢がとてもあり、指導が大変しやすかった事です。しかし、まだ幼いため集中力が続かなかったり、他の子が何をしているのか気にする事もありました。ですので、毎回、授業の15分前ぐらいからゲーム(カルタ、ひらがなビンゴ、数字ビンゴなど)をし、楽しく終わるよう心掛けました。子供たちがプレ

スクールで学んだ事を忘れず、小学校でも日本語を学び、友達や先生と関わってより多くのことを吸収してくれたら嬉しいです。

(注)本文中の A 君は九番保育園の園児で、補習のために土曜日も通ってきていました。

・ 九番保育園教室・まなびや教室 スペイン語スタッフ 玉城エリカ

「保育園で子どもたちの支援に関わりたい」というのが、以前からの私の夢でした。今回、まなびやの職員として保育園の先生たちとともに、子ども支援のお手伝いすることができたことに喜びを感じています。この事業を通して、私は、人に何かを伝える、教えることができる喜びを初めて経験しました。しかし、同時に、保育園の先生がたの今までの苦労が理解できました。日本語が不自由な幼い子どもたちが「なぜ泣いているのか」「なぜ怒っているのか」「何が言いたいのか」理解したいけどできない、伝えたいけど伝えられない、子どもと保育士双方のもどかしさを体験しました。でもたとえ言葉は通じなくても、先生たちはいつもやさしく見守ってくれています。子どもたちは心の中に、こんなに大事にしてもらったことを大切にしまっておいてほしいと思います。大人になったら、先生たちに大事にされたことや、その優しさを思い出し、人に恩返しできる大人になってほしいです。

今回の事業を通じて、外国人である私自身が幼い外国籍の子どもたちにいろいろなことを教えることができ、その子どもたちが学ぶ楽しさを知ってくれたことは、私たち日本に住む外国人にとって、小さいけれど大切な一歩であると思っています。私たち外国人家族にとっての大きな希望とは、自分の子どもを他の子と同じようにすくすくと健康に育てることができ、家族全員が快適に楽しく暮らせたらいいいということなのです。今まで、政府の関係者は私たちのことをただのマイノリティーとしかみていなかった節があり、日本という国は私たちの人権や存在を配慮してくれることはないだろう、と思っていました。しかし最近、日本政府や近くに住んでいる人たちの考え方が、良いほうに変わり始めたと感じるようになりました。肩身の狭かった今までの暮らしと、これからの暮らしは大分違ってくるのではないかと思います。

出稼ぎブームから 20 年以上が経ちました。当初、出稼ぎに来た人たちの中には、子どもを母国に残してきた人がたくさんいて、寂しい思いをしながら暮らしていました。あの時、母国に残されていた子どもたちが成長して来日し、親になって、自分の子どもをどういうふう育てれば良いのかわからなくて悩んでいます。家族の暖かさや優しさを感じたり、叱られたりした経験が無い者が、どうやって不安なく子育てすることができるでしょう。今回の事業は子どもたちへのアプローチが主でしたが、保護者も含めた支援ができれば、もっと効果があると思います。日本語が話せなくても、読むことができなくても、子どもを健やかに育てたいという親の願いは、世界中一緒です。子育て、日本語、学校教育、健康・・・それぞれの分野の専門家をネットワークでつなぎながら、元気で明るい家庭が地域で増えるために私に何ができるのか、これからも考えていきたいと思っています。

4-4. まとめ

4-4-1. 全体を通して

多文化初期指導教室は、平成22年9月中旬から平成23年3月中旬までの約6ヶ月間、九番保育園とまなびや@KYUBANの2箇所の会場で開催した。授業開始時には、45分間座っているのも辛そうであったが、2ヵ月目を過ぎたあたりから、指導者の指示を理解し、集中して課題に取り組むことができるようになってきた。この頃から、どの子どもも保育園の活動とは異なる、「授業」というものを理解し、学習スタイルを身につけてきたのが見て取れた。小学校に入学しても、子どもたちはきっと違和感なく、教室での授業に対応してゆくことができるだろう。

4-4-2. 九番保育園教室について

九番保育園教室に参加した子どもたちとその保護者は、教室開始時から、「お勉強をして、字を読めるようになる」という個人目標をそれぞれが持っていて、子どもたちはとくに、「書きたい」「読みたい」という想いが非常に強かった。その想いに応えるため、指導内容も文字指導中心となってしまう、九番保育園保育士の鈴木先生が指摘してくださっているように、小学校生活適応指導がおろそかになってしまったことは否めない。一日45分という限られた時間の中で、文字指導をし、語彙も増やし、生活適応指導も、というのはなかなか困難であったのが現実である。しかし、半年間でひらがなの清音、濁音をほぼ完全に習得し、ひらがなだけの簡単な絵本を読むことができるようになったのは、今回の事業の成果としてあげられる。保護者からも「ありがとう」「感動した」「不安なく小学校に通わせられる」という言葉をいただき、保護者からの期待と要望には応えることができたのではないだろうか。時間内で十分にできなかった語彙指導と生活指導に関しては、保育園の保育士の先生がたが、日々の活動の中でおこなってくださり、語彙に関しては、終了時の語彙調査ですべての子どもが高い伸びをみせた。このように、NPOの「文字指導」と保育園の「語彙指導」「生活指導」が同時進行で連携しつつおこなわれた例はあまりないが、それぞれの専門分野を活かして支援していくという点では、今後の子どもの支援や地域活動にも活かすことができるだろう。

4-4-3. まなびや教室について

まなびやの教室に参加した3人のうち1人は不就園の男児(I君)であった。彼の兄は、すでに小学校に通っており、I君ももちろん小学校へ入学するものだと思っていたが、教室の参加を迷っていた保護者が、「家庭の事情で小学校へ入学するかわからない。不就学でかまわない」という考えを持っていたため、小学校の母語学習協力員、保護者、まなびやの三者で、周囲が支援できることは何か、I君にとって最適な選択はどれか、ということと共に話し合った。結果的にI君自身が「小学校へ行きたい、日本語を勉強したい」という意思を強く示したことで、まなびや教室へ通うことになり、小学校入学の手続きも、母語学習協力員の協力を得て、無事に済ませることができた。彼に対しては、おもに日本語での挨拶表現、小学校の持ち物やきまり、困ったときや怪我をしたときはどうするか等についても指導した。このケースは、日頃の小学校との連携が活かした事例となった。

4-4-4. 追跡調査について

この事業の本当の成果が現れるのは、小学校入学後である。入学後、今回の教室で学んだ子どもたちが、どのように小学校に適応していくことができたのか、追跡調査は必須である。今後は東海小学校と連携して課題を洗い出し、東海学区における小学校就学前の初期指導のあり方を模索していきたい。

5. 使用教材

- ・『小学校入学準備 高鳴式ひらがな練習ノート』 PHP 研究所
- ・『ひらがなとすうじのおけいこちょう』 株式会社 学習研究社
- ・『ショウワのおけいこシリーズ あいうえお』 ショウワノート
- ・『6さいのワーク もじ・ことば』 株式会社 学研ステイフル
- ・『徹底反復 たかしま式 ひらがなれんしゅうちょう』 小学館
- ・『入学まえのひらがなカタカナ 5・6歳』 くもん出版
- ・『白石先生のきれいなひらがなれんしゅうドリル』 株式会社 学研教育出版
- ・『やさしいひらがな』 成美堂出版
- ・『七田式・知カドリル もじをならおう』 株式会社 シルバーバック
- ・『七田式・知カドリル もじをおぼえよう』 株式会社 シルバーバック
- ・『書き方カード ひらがな』 くもん出版
- ・『ひらがなカード』 くもん出版
- ・『幼児能力開発シリーズ おけいこノート カタカナ』 株式会社 学研ステイフル
- ・『ポケモンとあそんでおぼえる ひらがな』 株式会社 小学館
- ・『ポケモンとたのしくマスター カタカナ』 株式会社 小学館
- ・『一日5分でじがかけるほん カタカナ』 株式会社 講談社
- ・『七田式・知カドリル かずをおぼえよう』 株式会社 シルバーバック
- ・『なぞって覚える0～100 れんしゅうちょう』 株式会社 教学研究社
- ・『幼児能力開発シリーズ おけいこノート かず』 株式会社 学研ステイフル
- ・『やさしい かずかぞえ』 株式会社 くもん出版
- ・『やさしい すうじ』 株式会社 くもん出版
- ・『めいろあそび せかいのめいしよ』 株式会社 くもん出版
- ・『こどものにほんご2 絵カード』 株式会社 スリーエーネットワーク
- ・『チャレンジ1ねんせい入学の準備ワーク基礎編』 株式会社 ベネッセコーポレーション
- ・『たのしくおぼえることばワーク』 愛知教育大学 外国人生徒支援リソースルーム
- ・『ことばとおぼえるひらがなワーク』 愛知教育大学 外国人生徒支援リソースルーム
- ・『反対ことばカード』 くもん出版

第3章 「プレスクール実施マニュアル」の活用と課題

1. マニュアルの活用状況

本事業は、愛知県が作成した「プレスクール実施マニュアル」に参考に実施した。とくに活用した部分は以下のとおりである。

プレスクール実施マニュアル	開催前の 読合わせ	とくに活動に活かした箇所
序章 プレスクールの必要性と愛知県のプレスクール事業 (P1～7)	○	(3) 就学前の外国人の子どもの生活環境と保育環境 (4) 就学前の外国人児童生徒の状況 (5) プレスクールの必要性
第1章 プレスクール事業を企画・運営する際のポイント(Q&A) (P9～18)	○	Q2 どのようなこどもがプレスクールの対象となりますか？ Q5 プレスクールを運営するためには、どのようなスタッフが必要ですか？ Q6 どのようにプレスクールのPRや参加者の募集をしたらよいですか？ Q7 効果的な運営をするためにどのような事前準備が必要ですか？ Q8 プレスクールの運営のためにはどのような備品等が必要ですか？
第2章 就学前の外国人の子どもへの学校生活指導・日本語指導の進め方 (P18～59)	○	1 プレスクールでの「指導」の留意点 2 プレスクールの組み立て 3 情報収集 4 指導計画を作成しましょう 5 プレスクールのカリキュラム 6 保護者や関係者との情報共有を図りましょう 7 外国人の子どもと特別支援
第3章 プレスクールに関する理解を深めるために (P61～74)	○	1 子どもの言語・コミュニケーションの発達 2 子どもの第2言語習得と家庭
資料集 (P75～196)	○	・プレスクール参加申込書 ・語彙調査チェック表 ・語彙調査カード ・活動のヒント1「ことばかけのヒント」

	<ul style="list-style-type: none"> ・活動のヒント 5「絵本の読み聞かせをしましょう」 ・活動のヒント 7「替え歌を使って」 ・活動のヒント 8「絵カードを活用しましょう」 ・活動のヒント 9「絵カードを作ってみましょう」 ・活動のヒント 10「100 円 shop は教材教具の宝庫です」 ・活動のヒント 11「幼児用の知育玩具・知育ドリル」 ・活動例 1「インタビューごっこ」 ・活動例 4「鉛筆の持ち方・運筆」 ・活動例 11「ひらがな磁石」 ・活動例 12「ひらがな語彙と絵カード」 ・活動例 16「もちものシート」 ・活動例 22「具体物と数のマッチング」
--	--

2. マニュアルに対する意見および課題

- ・ マニュアル全体に関しては、事業を実施する際に必要な知識が盛り込まれており、たいへん参考になった。ただ、ポルトガル語を併記してあるページと、そうではないページがあり、(例:活動例のみポルトガル語訳がある)、なぜポルトガル語の翻訳がついているのか、説明が必要である。
- ・ 参加申込書や語彙調査に関するページはポルトガル語で資料があり、ポルトガル語を母語とする子どもには対応できたが、スペイン語、タガログ語、英語、中国語など、他の母語を持つ子どもには対応できなかった。今後は、さまざまな言語での資料の充実を求める。また、それらの資料を WEB ページでダウンロードできるような仕組みも必要だろう。
- ・ 語彙調査に関しては、この調査で本当に日本語の語彙能力が測れるのか、語彙調査だけで能力を測ってよいのか等々の疑問が残る。この点に関しても、さらに検討していただきたい。

今回の事業では、保育士の先生方より保育のアドバイスをいただきながら指導をすることができ、年齢相応の無理のない活動が可能であった。とくに、保育園に通ったことのない子どもに関わるには、子どもが心身ともに健康に成長するために、どんな活動や体験が必要であるのか、保護者にはどんなアプローチが必要かを支援する側が知っておくことは重要である。そのため、言語だけでなく、就学前の子どもの発達に関する資料を増やしてもらいたい。

**平成 22 年度 愛知県委託事業
多文化初期指導教室 開催業務 実施報告書**

平成 23 年 3 月 25 日発行

発行：NPO まなびや@KYUBAN

代表 川口 祐有子

〒455-0001 愛知県名古屋市港区七番町 2-11-1

モール 9 番街内 まなびや@KYUBAN

※本報告書の内容、写真、データの無断複写・転載を禁じます